

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高橋 甲枝	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	-------	----	-----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護	・ シミュレーション教育 ・ 初年次教育 ・ 乳がん患者の就業支援

研 究 課 題
・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・ 急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにし、投稿を行う。 ・ 初年次教育の効果を経時的に検討する ・ 安全な三角筋筋肉注射について投稿を行う。

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) 成人看護学演習 (前期) 健康教育論 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護研究 (前期) 看護総合実習 (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 成人急性期看護学実習 (後期) 救急・クリティカルケア看護学演習 (後期) 看護学特論 (後期) 看護のための臨床検査 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 14 コマ、1 コマ 100 分 対面授業 ① 昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。 ② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式(構成)と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。 ③ 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
授業科目名【成人看護学演習】前期 28 コマ、1 コマ 100 分 対面授業 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例(胃がん)、慢性期事例(肝硬変)の2例を展開した。 グループワーク人数を5名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、術食後の観察と援助と報告の演習、新たに術後患者の清拭・

離床を取り入れた。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。ストーマ造設した患者の看護については、学内時にパウチを配布して遠隔授業下で患者体験を行った。
授業科目名【健康教育論】前期 7 コマ、1 コマ 100 分 遠隔授業 健康教育論は、科目担当者 2 名で講義・個人ワーク（パンフレット作成）、発表をとおして、健康教育、患者教育の学びを共有した。 ヘルスプロモーションの定義および行動変容について解説を行った。パンフレット作成および発表に対してコメントをとおして患者指導の必要性について説明を行った。
授業科目名【看護研究】前期 14 コマ、1 コマ 100 分、遠隔授業 看護研究は、科目担当者 5 名。講義・グループワーク、発表をとおして、基本的な研究について学ぶ科目である。学生は、文献検討を行うなかで疑問をみだし、学生を対象とした研究計画を立案した。研究計画書の立案、同意書作成、研究対象者への説明とグーグルフォームで調査を実施、分析、発表という研究の一連を実施することで看護研究の基本を学んだ。
授業科目名【看護総合演習】通年 14 コマ、1 コマ 100 分 遠隔・対面授業 看護総合演習では、6 名の学生を担当し、遠隔と対面で授業を行った。 「急性期看護学実習」を想起させ、急性期における看護について「文献研究」を行った。学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、他者評価・自己評価を行うことができていた。
授業科目名【看護総合実習】通年 10 日間（対面実習） ① 看護総合実習では、周手術期の患者の理解と看護師の理解を深めるために、「成人急性期看護学実習」の患者役を通して学びを深めた。 ② 基本的な技術の修得と既習の知識の確認を行い、実践の根拠と技術習得を目指した。 ③ 事前に肺を切除する患者事例あるいは乳がん事例の病像シートを事前課題とした。 ④ 輸液管理、呼吸管理、循環器の検査、血糖・インスリン注射指導、BLS 講習、褥瘡予防、挿管の介助（吸引・口腔ケア、標準予防策）について事前課題を行い、それぞれの技術指導の実践を行った。 ⑤ 最後に学びの発表を行った。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 14 コマ、1 コマ 100 分 対面授業 主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。 ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。 ② 学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを 12 月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。 ③ プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。 ④ 発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。 ⑤ プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。
授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 14 コマ、(8 コマ担当) 遠隔授業 成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的に学習する機会を取り入れた。また、3 年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。

授業科目名【成人急性期看護学実習】1クール（1月）のみ臨地実習、他は対面実習 ① 成人急性期看護学実習は本来2週間の病棟実習と3週目にICUおよび手術室見学実習の3週間実習である。学内実習のプログラム検討を行い、実習目的が達成できる内容に変更した。 ② 周術期の理解を深めるために、性、年齢、術式、既往歴の違いによる術後経過の変化および予測する必要性を学べるようにした。さらに身体的な面だけではなく、ボディイメージの変化など心理面を理解するねらいとして、乳がん事例4例、肺がん事例4例を準備した。 ③ 周術期にある模擬患者および模擬電子カルテを用いて、臨床での実習に近づけて看護展開を行うようにした。 ④ 術前の看護（入退院センターから入院後の術前処置・訓練、術前準備、不安の援助）、術当日の看護、術直後の看護、回復へ向けた看護（離床、清潔援助、退院指導）と周術期の時期を考えながら学ぶことができるようにした。 ⑤ DVD視聴、模擬患者に使用する物品は実際に臨床で使用されているものを使用し、イメージ化を図り、使用方法の修得を目指した。 ⑥ 1月1クールのみ臨地にて午前中3時間の実習を行った。午後は臨地での情報をもとに学内では情報の整理、ケアの練習を行い、次の日の実践に臨めるように指導を行った。		
授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 14コマ 対面授業 2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護を対面授業で行った。		
授業科目名【看護学特論】後期 7コマ（担当1コマ） 対面授業 4年次生を対象に各領域の7名の教員で対面授業を行った。急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。		
授業科目名【看護のための臨床検査】14コマ（担当5コマ）遠隔授業 今年度より看護師3名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査について説明を受けた。授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して立て、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987年4月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会会員		1995年5月～（現在に至る）
日本看護研究学会会員		2004年7月～（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2004年7月～（現在に至る）
日本看護技術員		2011年4月～（現在に至る）
日本運動器看護学会会員		2015年2月～（現在に至る）
日本看護教育学会会員		2021年1月～（現在に至る）

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 高橋甲枝、目野郁子、笹月桃子 他：オンライン講義による初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度からみた看護学生の学び -	共著	2022.3	西南女学院大学紀要. 26 (in press)	オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。
(翻訳)				
(学会発表) 坂本未穂、高橋甲枝、財津倫子：看護学生のストーリー装具を装着した患者疑似体験による学び	共	2021.12	日本看護科学学会学術集会（示説）	学生の疑似体験（ストーリー造設患者）からの学びを明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員：2020. 4. 1～2021. 3. 31 学科教務：2020. 4. 1～2021. 3. 31 4 年生（ゼミ）アドバイザー：2020. 4. 1～2021. 3. 31